

2022年度 事業報告

NPO 法人犬山あんきにくらそう会

1. はじめに

今年「犬山あんきにくらそう会」は1999年に設立して24年目となり、第26回通常総会を開催する運びとなりました。「今井あんきの家」が新しい施設に移転をして1年半が過ぎ、この施設での1年を結果報告する初めての総会となります。

NPOは、困っている人に手を差し伸べることを理念としています。NPO活動分野の保健、医療、福祉の分野と子どもの健全育成の分野で活動することを目的に出発しました。2000(平成12)年4月に開始した介護保険法の指定事業者になることによって、「介護の社会化を地域で実現すること」をめざし、23年間活動してきました。

会員の皆さんの協力を得て2016年に認定NPOを取得し、次の有効期間は令和8(2026)年6月までです。認定NPO維持のためには100名以上の会員維持が必要ですので引き続きご支援のほど、よろしくお願いいたします。

新しい施設へ移転当初からおかげさまでグループホームは満床(2セッション18名)となっています。小規模多機能型居宅介護「宅老所今井あんきの家」では、定員29名に対し現在18名しかおらず、なかなか定員が埋まらない状況が続いています。原因としては、人手不足のためお泊まりの日程が限定的になってしまっていることがあげられます。スタッフの人員不足は移転当初から続いています。今まで「今井あんきの家」は人に恵まれ、特にスタッフ募集の広告などハローワーク以外に出さなくても、知り合いの知り合いといったつながりで、スタッフを集めてきました。しかし、移転に伴う事業拡大(グループホーム1セッション増床)により、慢性的な人員不足に陥っています。この状況を改善すべく、初めてWeb(インターネット)での有料求人広告を出すことを決めました。90万円の費用をかけて、現在インターネットの求人サイトに載せています。夜勤シフトが組めず、今回初めて派遣社員の利用を2023年10月から始めました。また、特定技能外国人の制度を利用し、ミャンマーから介護福祉士を目指す若者を採用することを決め、現在交渉中です。「犬山あんきにくらそう会」を立上げて23年経ち、当時40歳代だったスタッフも60歳代になり、次の担い手を育てていかななくてはならないという状態です。

小規模多機能型居宅介護「宅老所今井あんきの家」は、泊まって、通って、訪問して、と3つの役割を一つの施設が請け負う介護保険のメニューで

す。あくまで、施設とは違い在宅支援です。なるべく長く自宅で過ごしたい、できれば「看取り」も住みなれた家族と共に、そんな願いをかなえる支援場所です。昨今は、医療の発達により病気を抱えながらも、自宅で過ごす人も多くなってきています。「今井あんきの家」としては、最後まで自宅で過ごしたいという人たちを支え、一緒に頑張っていけるように小規模多機能型居宅介護を看護小規模多機能型居宅介護(複合サービス)への変更も視野に入れてきました。もちろん変更には犬山市の許可が必要で、現在小規模多機能型居宅介護「宅老所今井あんきの家」を利用している人たちへの説明も必要となるため、現在は検討中の段階です。

この20年でグループホームは終の棲家として世間でも定着してきました。看護小規模多機能型居宅介護により、自宅が本当の終の棲家となれるように支援したいと思っています。

今年度、経営としてはなかなか順風満帆とはいかず、銀行からの融資の返済や新しい施設への移転に伴う増税など、今井地区で運営していたころとは違う厳しさがあります。それでも、良い介護をするべく、スタッフを大切にし、新しいスタッフを育て、やりがいのある仕事と感じてもらえるように常に向上心を持って施設運営に挑んできました。

コロナウイルスによる感染症は昨年度に続き2度目のクラスター発生をグループホームで経験しました。2度目という事もあり、スタッフも落ち着いて対応でき、前回より規模も小さくすみました。それでも、体力のないお年寄りにとって、感染症の脅威は非常に大きいことも学びました。スタッフ一人一人の自覚の向上と施設としての感染対策の徹底を今後も続けていきます。

2. 事業実施の概略

ア、本部事業について

(1) 会員

年度	'99年	'00年	'01年	'02年	'03年	'04年	'04年	'05年	'06年	'07年
正会員	69人	84人	77人	69人	84人	106人	92人	116人	111人	115人
賛助会員	39人	58人	45人	46人	48人	62人	69人	65人	57人	59人
利用会員					1人	4人	4人	9人	7人	0人
計	108人	142人	122人	115人	133人	172人	165人	190人	175人	174人

年度	'08年	'09年	'10年	'11年	'12年	'13年	'14年	'15年	'16年	'17年
正会員	129人	138人	135人	129人	73人	56人	53人	51人	50人	52人
賛助会員	55人	53人	49人	49人	106人	125人	126人	116人	130人	134人
利用会員	0人	0人	0人	1人	2人	1人	2人	5人	2人	0人
計	184人	191人	184人	179人	181人	182人	181人	172人	182人	186人

年度	'18年	'19年	'20年	'21年	'22年					
正会員	50人	50人	53人	50人	49人					
賛助会員	136人	142人	134人	155人	166人					
利用会員	0人	0人	0人	0人	0人					
計	186人	192人	187人	205人	215人					

認定NPOを維持する為には、賛助会員を含め3,000円以上の寄付口数が年平均100人以上必要ですが、今年度は145人でした。

2022年度の新規会員は23人、退会は13人でした。寄付者は18人でした。

(2) 広報活動

① 「あんきだより」は4回発行しました。

第101号 2022年12月発行

第25回総会 無事に開催できました

一般財団法人白寿会から助成していただきました

第102号 2023年3月発行
4年ぶりの春爛漫
赤い羽根共同募金
～配分金事業により
業務用食洗機を購入できました～
ご寄付いただいた古布はこんな風に利用しています

第103号 2023年6月発行
移転して一年が経ちました
第26回通常総会のご案内
新人スタッフ紹介(拡大版)

第104号 2023年9月発行
第26回通常総会にむけて
看護小規模多機能型居宅介護ってご存じですか

② ホームページ

ホームページが新しくなり、ご利用に関するご案内や空き状況が見やすくなりました。トップページからブログやインスタグラムも簡単に閲覧できます。「あんきだより」も発行後にアップしています。

③ ブログ・インスタグラム

2011年11月に開設したブログが、13年目を迎えました。
「今井あんきの家」での日常を織り交ぜながら、老人介護について綴っています。“今井あんきの家 ブログ”で検索、若しくはホームページのトップページから見られるようになりました。2019年4月に開設したインスタグラムも4年半が経ち、今井あんきの家の日常をお伝えする事ができました。「コメント」に感想やご意見をお願いします。

④ グループホーム&宅老所「井戸端ごよみ」

あんきの家でのご利用者の様子を中心としたスナップ写真とともに、季節ごとに(年4回)ご家族にお届けし、イベントや施設内の様子などを伝えることができました。今後も施設の雰囲気や伝わるような季刊誌を作成していきます。

(3) ボランティア活動

感染予防対策を厳重にしながら、犬山新婦人の皆様はボランティアに毎月訪れて下さいました。ボランティアの方々が育てた庭の花で、ご利用者の活け花を手助けしていただいたり、踊りの披露やご利用者の皆さんと一緒に歌や手遊びを楽しんで下さるなど工夫をしていただきました。

2023年5月にコロナウィルスが5類対応となってからは、ボランティアグループの訪問が少しずつ増えてきました。グループ「かざぐるま」のオカリナ演奏会や、地域の方のウクレレ演奏、そして田んぼのもみ山での焼き芋作りや田楽会は旧職員ご夫妻の力を借りて、屋外での久しぶりの楽しい時間でした。

コロナ禍にあっても会員の方々や、今井あんきの家に関わった方から古タオルや古布を届き、ありがたく活用させていただきました。

(4) 見学者・研修生

「老年看護学実習」の実習施設として1月から3月迄、尾北医師会立の尾北看護専門学校8グループ38名の看護学生を受入れました。9時から12時までの1週間ごとの実習でしたが、厳重な感染対策をとりながら学んでいただきました。

高齢者や認知症との関わりが少ない学生たちでしたが、真摯に学び利用者の方々とも良い関係をつくる事ができ、短時間であっても充実した実習だったと学生は感想をのべていました。10年以上にわたり尾北看護専門学校と愛北看護専門学校の臨地実習の場を提供してきましたが、カリキュラム変更によりひとまず終了となりました。

福祉学習のため城東中学校生徒が6名訪問されました。まだコロナ禍での訪問だったため、インタビュー形式で職員から介護を学びました。

イ、 介護保険事業について

(1) 小規模多機能地域密着型サービス

① グループホーム(認知症対応型共同生活介護)

グループホームとは、高齢者が認知症になり自宅で過ごすことが難しくなっても、住み慣れた地域で暮らし続けることができるように支援する「地域密着型サービス」の一つです。

また、少人数での生活によって、同居している高齢者やスタッフと顔なじみになりやすく、利用者の不安感を防ぐことに繋がっています。さらに、日常の家事などを自分たちの力で行うことが、適度な刺激となり、認知症の進行を防ぐ効果があるとも言われています。

塔野地に移転して1年が経ち、定員は概ね満室です。コロナ禍の影響によりご家族との面会・外出の制限や地域との交流の減少などグループホームらしさがつくれず、ご利用者さんやご家族さんにはとても不便をおかけしました。最近ではグループホーム棟内でのご利用者さん同士の交流や行事も増やすことができ、また感染対策に気をつけながらご家族さんとの外出など状況に応じてできるようになってきました。

ご家族の希望があれば看取りまで対応しています。在宅往診(医療)や訪問看護(看護)と連携をとりながら、安心して過ごすことのできるグループホームを目指しています。

② 宅老所(小規模多機能型居宅介護)

高齢者の多くは「最後まで自宅で暮らしたい」と言います。「主人も死んだし子供も独立したし家に居るのは私一人。それでも自宅で暮らしたい」とよく耳にします。しかし実際最後まで自宅で暮らす事は簡単な事ではありません。様々な理由で入所施設に入られる方が多いのです。グループホームは、そういう方々の為の施設です。今井あんきの家には、グループホームと小規模多機能型居宅介護事業所があります。

小規模多機能型居宅介護事業所を今井あんきの家では宅老所と呼んでいます。宅老所は「最後まで自宅で」の為にご本人様とご家族様を支援するサービスです。本当の最期の最後までは無理でも、「通い・訪問・宿泊」の3つのサービスを組み合わせて「なるべく自宅で」をお手伝いします。3つのサービスを同じスタッフから提供出来るのも宅老所の利点です。また訪問看護ステーションを併設しているので一定の医療対応も可能です。「最後まで自宅で」「なるべく自宅で」の為に日々頑張っています。

まだまだ地域の方々に認知されていないので、コロナ禍を抜け出せば、地域活動に参加したり、逆に今井あんきの家の行事に地域の方々を招待したりして、地域と密着した事業所を目指したいと思っています。まだ空きが沢山あります。是非会員の皆様にも広告のご協力をお願いいたします。

③ 共用型デイサービス(共用型認知症対応型通所介護)

共用型デイサービスはグループホームで行う「通所サービス」で少人数の家庭的な環境の中で、個々に合わせた柔軟な支援を提供します。(3名/日) また、グループホームと共用スペースを活用したサービスのため、介護保険の自己負担額が他のデイサービスの約半分で利用できます。将来の入所に備え、入所待ちの間に環境に馴染んでおくことができ、スムーズな入所にもつながります。ここ数年は新型コロナウイルスの影響もあり、利用者を受け入れることが難しくなっていますが、感染の心配がなくなり次第、営業します。

(2) 訪問看護ステーション

訪問看護は、グループホーム今井あんきの家が皆様の終の棲家となるべく、医療連携体制をとっております。2ユニット18名の皆さんの医療面でのサポートをさせていただいています。医療処置が多く重症化していく利用者様ができるだけ穏やかにすごしていただけるように、また看取り介護のサポートができるよう介護スタッフのカンファレンスにも参加し介護・医療の連携が図れるようにしています。

小規模多機能の利用者様の心身の変化にも日頃から気を配り顔なじみになることで、必要時には訪問看護サービスがすぐに導入され在宅での生活が継続できるようお手伝いさせていただいています。

(3) あんき事業

今井あんきの家は介護保険事業以外に自主事業として、配食サービス、お出かけ同行サービス、今井の旧施設の活用などを行っています。

配食サービスとお出かけ同行サービスは NPO 会員様限定のサービスとなります。配食サービスはお弁当を昼食時や夕食時にご自宅へ届けます。その時に安否確認やちょっとしたお手伝いを行う事も可能です。お出かけ同行サービスは通院など家族での対応が困難な場合に宅老所の送迎車を利用してお手伝いします。

今井の旧施設の活用は、月に2回(第1.第3火曜日)「カフェ井戸端」を行っています。退職したスタッフや地域の方にボランティアで協力いただいています。お茶やおしゃべりを楽しんだり、ランチサービスも行っています。ランチは今井あんきの家の食事と同じ物

を提供していますので、施設でどんな食事を食べているか知りたい方は是非一度ご来所ください(ランチは要予約)。旧施設の再利用としては、今井小学校へ通うお子さんのご家族に貸し出したり、家の建替えの間の仮住まいとして提供したり、栗栖で開かれた「彫刻村」の宿泊所として提供したりしました。

犬山アイエエネルギー株式会社と協力して施設に併設した薪ボイラーも順調に運用しています。SDGs(持続可能な開発目標)に対応した再生可能エネルギーという事で見学に来る人もいます。季節によって薪を追加する量が変わり、管理が大変そうで、煙による苦情も一部見られましたが、その都度対応してもらい、お年寄りの入浴のお湯はすべてこのボイラーでまかっています。

ウ、 各種会議の実施

(1) 総会・理事会

2022年度は、通常総会1回、定例理事会4回、を開催しました。

第25回通常総会 出席者46人(内委任状提出者20人)

日 時 2022年11月23日(水・祝) 13時30分～

場 所 犬山市民交流センターフロイデ 2F 多目的室1.2

第1回理事会 出席者 理事9人

日 時 2022年11月14日(月)17時～

場 所 今井あんきの家

議 題 ①2022年7月～2022年10月利用者実績報告

②2022年度総会準備

・会計報告

・理事変更

・定款変更(住所変更、監事の定数変更)

③その他

・旧施設の利用について

第2回理事会 出席者 理事等8人

日 時 2022年11月27日(日)9時～

場 所 今井あんきの家

議 題 理事長の選定について

第3回理事会 出席者 理事等9人

日時 2023年2月28日(火)17時～

場所 今井あんきの家

課題 ①2022年11月～2023年1月利用者実績報告

②旧あんきの家 活用について

③経営状況の報告

④その他・看護小規模多機能型居宅介護サービスの説明

第4回理事会 出席者 理事等9人

日時 2023年6月15日(木)16時～

場所 今井あんきの家

課題 ①2023年2月～2023年5月利用者実績報告

②2022年度第26回通常総会について

③旧施設活用について

④看護小規模多機能型居宅介護への移行について

(2) 運営会議

毎月第3金曜日午前中に定例化して開催しました。運営委員は代表理事と職員の代表10人で構成、月1回で年12回開催しました。

(3) 各事業所スタッフ会議兼内部研修等

新型コロナウイルス感染対策を厳守しながら、グループホーム、宅老所のスタッフ会議は12回開催しました。グループホーム2棟と小規模は同日で時間帯をずらし、それぞれで会議を開催しました。また各々の会議と会議の間には、毎月施設内部での研修を行い、専門的知識の取得に努めています。スタッフ会議前には各管理者が集まり、議題の確認と会議進行の円滑化をはかるための話し合いをしています。

(4) 地域密着型運営推進会議

運営推進会議は、法律で2ヶ月に1回の開催が義務づけられています。グループホームは第10回から第15回、小規模多機能型居宅介護は第97回から第102回とそれぞれが6回行いました。新型コロナウイルス5類移行に伴い、5月の開催より書面審議から対

面審議の開催となりました。

犬山市高齢者支援課、城東地区高齢者あんしん相談センター、塔野地区長及び今井区長、今井老人クラブ会長、城東中学校区の民生委員の皆様、利用者のご家族様に議案を送付させていただき、新施設でのご利用者の生活状態やスタッフの対応の現状、コロナ対策、事故報告の結果などについて報告いたしました。

また、身体拘束防止委員会としての役割も兼ねており、現状の報告をいたしました。

令和6年から新たに、年2回、虐待防止委員会の開催が義務付けられる事になりました。今井あんきの家では令和5年7月に第2回を開催し報告をいたしました。